

『機界戦隊ゼンカイジャー VS キラメイジャー VS センパイジャー』

2022年／日本／山口恭平 監督作品

大人になってからこそ得られる 特撮映画の魅力

会員 櫻井 康憲 (69期)



機界戦隊ゼンカイジャー
VS キラメイジャー VS セン
パイジャー
Blu-ray & DVD 発売中
Blu-ray: 6,050円(税込)
DVD: 4,950円(税込)
販売: 東映
発売: 東映ビデオ

「シン・ウルトラマン」や「シン・仮面ライダー」など、大人向けに制作された特撮映画が話題となったことは記憶に新しいですが、こういった意図して大人に向けて制作されたものを除くと、多くの方は小学校高学年になる頃には特撮を子ども向けのものだと判断して「卒業」してしまっているのではないのでしょうか。

かくいう私もいつからか特撮を見る機会がなくなっていたのですが、息子が生まれたことをきっかけに2年ほど前から改めて戦隊シリーズを見始めました。そんな中で出会ったのがこの作品「機界戦隊ゼンカイジャー VS キラメイジャー VS センパイジャー」でした。

戦隊シリーズは、毎年シリーズ放映終了直後の作品と更に1つ前の作品とのコラボ映画が恒例で制作されており、この作品もその一つです。

キラメイジャーは正統派のヒーローといった感じなのですが、戦隊45周年を飾るゼンカイジャーの方はかなり異質で、主人公のカラーは白、さらに主人公以外は過去の戦隊をモチーフにしたロボット達というトンデモ構成です。通常放送のノリも他の戦隊とは一線を画し、子どもには分からないギャグの連発、過去のすべての戦隊に変身できる特殊能力ありとあらゆる面でハチャメチャなものでした。他の作品で例えるなら、マーベルでいうところのアイアンマンなど正統派系統のキラメイジャー、気軽に第四の壁を突破するなどやりたい放題なデッドプールがゼンカイジャーといったようなイメージでしょうか。

さて、そんな2つの戦隊が共演を果たした映画のストーリーは、4つ揃うと何でも願いが叶う秘宝「カナエマストーン」が盗まれてしまったため、それを取り戻す

というシンプルなものですが、その過程で上述の「ゼンカイ節」がゼンカイ。ヴィランの「焼肉ワールド」が作った焼肉屋の世界(?)で味方同士のキラメイジャーとゼンカイジャーが焼肉食べ比べ勝負を始めたり、食べきれなくなると歴代戦隊を呼んで焼肉を食べてもらったり、最後の戦闘では過去の戦隊レッド(センパイジャー)が集合して一緒に戦ってくれたりと何でもありのお祭り展開で、最後まで飽きることなく鑑賞できます。

なお、映画の内容から離れますが、ゼンカイジャーの人間1人口ロボット4体という特異な構成はコロナ対策の側面もあったようで、放映当初はそれで戦隊としての魅力が保てるのかという疑問も呈されていました。結果的には、新人が起用されることの多い他の戦隊とは異なり経験豊富な声優陣によりゼンカイジャー独自のノリにマッチする柔軟なアドリブが多数生まれて物語の面白さに拍車をかけ、人気のシリーズとなりました。子ども時代には知る由もない点ですが、同じようなシリーズを同じようにならないように常に技術を磨き新たなチャレンジを続け逆境すらも味方にする、撮影の裏側にもそんなヒーロー達がいる、彼らからも多くの学びを得られるというのが、大人が特撮を見るからこそ得られる魅力の一つなのかもしれません。

なお、この映画はキラメイジャーについてそこまで理解している必要はありませんが、ゼンカイジャーを見てノリを知っていないと面食らう部分があります。この機会にみなさん東映特撮ファンクラブ(TTFC)に加入して特撮の世界にどっぷり漬かってみませんか?そして私と是非語り会いましょう。この記事で少しでも同志が増えることを期待しております。